

厨房内における給食への毛髪混入防止の取り組み

～ユニフォーム変更による効果～

施設名：介護老人保健施設 白川園
発表者：喜屋武千恵

【はじめに】

食事に於ける異物混入は、給食提供施設では日々神経を注ぐ項目の一つである。当園厨房でも、始業前やユニフォーム着脱時に粘着ローラー掛けや身なり確認を行い、異物(毛髪)の混入防止に努めてきたが、定期的に起こってしまう状況だった。そんな時、事故対策委員での園内勉強会をきっかけに、異物混入の中でも毛髪混入をヒューマンエラーではなく、システムエラーと捉え帽子的形状を変更する事で毛髪混入件数の減少に繋がったため、ここに報告する。

【目的】

男女の帽子的形状を変更・統一する事により、毛髪混入を予防し、事故0件を目指す。

【方法】

帽子的形状変更前の6か月と、変更後6か月のヒヤリハット件数、事故報告件数を集計し、毛髪混入件数の差を比較する。

変更前の形状

男性：丸天メッシュ帽子・和帽子

女性：メッシュ帽子

変更後の形状

男女：ケープ付き衛生帽子

顔回りまで覆われ、首回りはマジックテープでしっかり閉める事ができる。

ケープ部分は白衣内に入れ込む事と統一した。

【結果】10月は移行期間のため件数除く。

当園厨房に於けるヒヤリハットとは作業中や食出し前のチェック業務で確認できたもの。事故とは摂食前も含め厨房内から出された物に混入があった物となっている。

変更前

統計期間：令和3年4月～令和3年9月

件数：ヒヤリハット 6件

事故報告書 1件

実施後

統計期間：令和3年11月～令和4年4月

件数：ヒヤリハット 3件

事故報告書 0件

【考察】

帽子的形状変更前に比べ、同内容のヒヤリハットや事故件数共に減少している結果となった。変更前も、ヒヤリハットや事故が出た際にはミーティングを行っていたが「粘着クリーナーの徹底」や「髪の毛をしっかりと帽子に入れる」といった同じ対策内容となっており、実践していても完全に防ぐ事は難しいと考え対策の追加などには至らなかった。また、業務開始前にしっかり身なりを整えても調理作業を行う中で、後方は自身では気が付きにくい事や、すぐに手をとめて再度、帽子を被りなおし粘着クリーナーを行う事は難しい状況である。そこで、現在の帽子的形状へ変更した事で顔回りやうなじ部分をしっかりと覆え、ケープ部分を白衣内に入れる事で帽子から出る毛髪はほぼ見られず、抜け毛がある際も白衣の外側に付くリスクは減少した。更に、顔回りから毛髪が出ている際は声がかげやすくなり、再度、鏡の前で身なりを整える様子も見られるようになり、今回の結果が得られたと考えられる。変更前にはこれまで着慣れたユニフォームを変更する事もあり、「見た目が気になる」や「被りにくそう」という声が上がった。しかし変更後は着慣れないからこそ、これまで以上に身なりを整える意識付けとなり、「髪の毛が出る部分がないから安心」という声が聞かれ、食事を提供する際に毛髪混入への不安感の軽減にも繋がった。一方で首回りも覆われるため、「夏場は暑い」という意見もあり厨房内の室温管理といった環境整備も課題となる。

また、今回の取り組みのきっかけとなった園内勉強会は全部署に共通する内容だった事で、帽子的形状を変更するという厨房内では気が付けない対策が得られるきっかけとなり、厨房職員の勉強会参加の必要性を再認識した。

【まとめ】

今回は毛髪混入に焦点を当て、帽子的形状を変更する事でより安全に食事を提供する事に繋がった。今後も、毛髪混入に限らず厨房での事故発生を予防できるよう、的確な対策をとり、厨房職員が安心して作業ができ、利用者様へ安全に食事が提供できるよう取り組んでいきたい。